

**M-AUDIO®**

**KEYSTATION 61** MK3

---

ユーザーガイド

## 安全にお使いいただくために

### この取扱説明書で使用している危険防止のマーク



このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。



このマークは、適切な電圧で機器をしようしないと、感電の恐れがあるという警告です。



このマークは、ご利用出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

### 製品をご使用の際は、以下の使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を必ずお読みください。
2. 注意事項を必ずお守りください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには置かないで下さい。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに乗せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 主電源プラグまたはアダプターをコンセントからいつでも抜ける状態にしておいてください。
17. 本装置をアンプに接続して、ヘッドホンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
18. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
19. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。



このマークのついた製品は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に、アダプタのアース線を接地してご使用ください。

#### inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部

東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布ビルディング 6 階

[ Web ] [inmusicbrands.jp](http://inmusicbrands.jp)

[ サポート ] [www.inmusicbrands.jp/support](http://www.inmusicbrands.jp/support)

## ユーザーガイド

### はじめに

Keystation 61 MK3をお買い上げいただきありがとうございます。M-Audioは「お客様のパフォーマンスを最高のものにする」ということを念頭に置き、製品設計を行っております。

### 同梱物

Keystation 61 MK3 本体

USB ケーブル

ソフトウェア・ダウンロードカード

ユーザーガイド/保証書

### サポート

Keystation シリーズの各モデルの最新情報につきましては、製品ページをご覧ください。

<http://m-audio.com>

また、製品のサポートにつきましては、以下のページをご覧ください。

<http://m-audio.jp/support/>

## クイックスタート

### キーボードを接続する前に

PCに接続しているUSBポート、または別売りの電源アダプターを使用して、キーボードに電源を供給することができます。

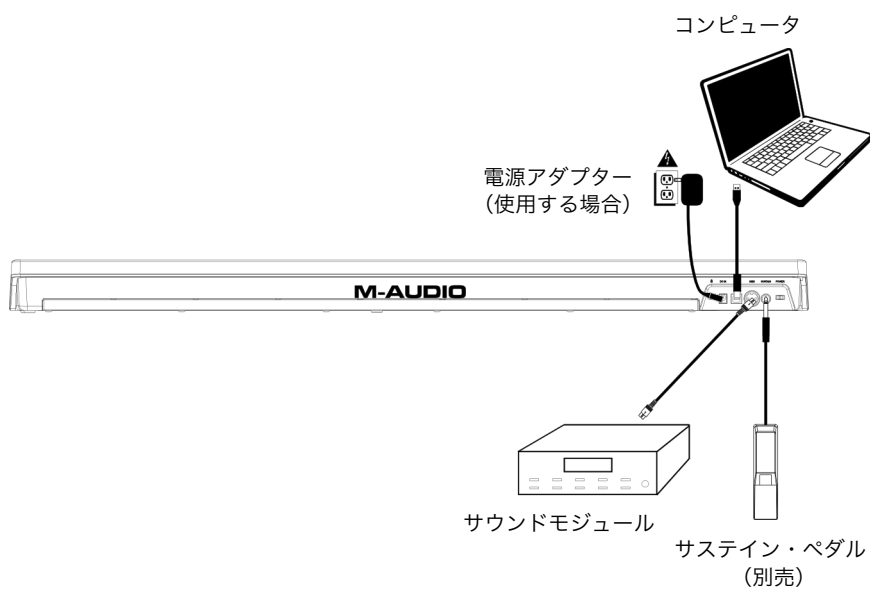
Keystationは低電力デバイスであり、コンピューターとの接続を絶たない限り、基本的には外部電源は必要ありません。

Keystationのキーボードは、USBバスパワーで動作します。コンピューターに装備されたUSB端子や外部電源を使用するタイプのUSBハブに接続することをお勧めします。コンピューターに接続してシンセサイザーのソフトを起動するときは、USBケーブルを使用しキーボード本体に電源を入れて下さい。

また、Keystationキーボードは、別途 Apple iPad Camera Connection Kit をご用意いただければ、iOSデバイスと接続可能です。※電力不足の表示が出る場合は、別途パワードタイプのUSBハブをご用意ください。

## 接続例

はじめに > 同梱物 にはないものは別売です。



## 推奨環境

Pro Tools | First M-Audio Edition : Keystation には Pro Tools First M-Audio Edition、MPC Beats、Ableton Live Liteが同梱(ダウンロード提供)されていますので、すぐに音楽を作り始めることができます。最初にm-audio.com でアカウントを作成、アカウントにサインインしたら、製品登録し、ダウンロード>インストールの順に進めてください。また、ableton.comに定期的にログインし、ソフトウェアアップデートの有無をご確認ください。

ソフトウェア音源(プラグイン) : m-audio.comにログインしてプラグイン・ソフトウェアをダウンロード>インストールしてください。インストール後、ほとんどのDAW はプラグイン・ソフトウェアを自動的に読み込みません。ProTools/First M-Audio Editionで使用するには、各ソフトのプラグインフォルダをスキャン、または選択して下さい。

### Pro Tools | First M-Audio Edition/AAXプラグインフォルダー :

#### Windows (32-bit):

C:\Program Files (x86)\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins

#### Windows (64-bit):

C:\Program Files\Common Files\Avid\Audio\Plug-Ins

#### Mac:

Macintosh HD/Library/Application Support/Avid/Audio/Plug-Ins

### Ableton/VSTプラグインフォルダー :

#### Windows (32-bit):

C:\Program Files (x86)\VSTplugins

#### Windows (64-bit):

C:\Program Files\VSTplugins

#### MacOS:

Macintosh HD/Library/Audio/Plugins/VST

Ableton Live Lite でプラグインフォルダを設定するには :

1. 「環境設定」メニューに移動します。適切なプラグインフォルダを選択します。
2. 「File / Folder」タブを選択します。プラグインソースから、適切なプラグインフォルダをオンにします
3. 選択した後、「Plug-In Folder」ボタンがオンになります。表示されていない場合は、ボタンをクリックしてオンにします。

環境設定メニューを終了します。

## Ableton Live Lite セットアップ

1. Keystation 61 MK3 を付属の USB ケーブルを使用してコンピューターの USBポートに接続し、Ableton Live Lite を起動します。
2. Ableton Live Lite 環境設定ウィンドウを開きます。オーディオタブでオーディオデバイスを選択します。設定に関しては使用しているオーディオ・インターフェイスによって異なる場合があります。

**MAC :** 「Live」 > 「環境設定」を選択

**PC (WINDOWS) :** 「オプション」 > 「環境設定」を選択

3. Link / MIDI タブを選択します。  
MIDI ポートセクションで、以下のように設定を調整します。

### 入力:

「Keystation 61 MK3」の横のTrackとRemoteの列の「On」ボタンを選択します。

### 出力:

「Keystation 61 MK3」の横のTrackとRemote の列の「On」ボタンを選択します。

4. 次に、コントロール・サーフェスのウィンドウの上部で、行1のドロップダウンリストから「MackieControl」を選択します。行1の入力列の下で、Keystation 61 MK3 (ポート 2) を選択します。「出力」が「なし/none」に設定されている行1の3番目のドロップダウンメニューを確認します。Keystation 61 MK3 コントローラーのトランスポートコントロール (再生、停止、録音) は、AbletonLive Lite のトランスポート機能を実行できます。さらに、Keystationシリーズコントローラーの方向ボタンで、トラックの選択とクリップのトリガーを制御できるようになります。
5. ウィンドウを閉じます。
6. 音を出す為にインストゥルメントまたはプラグインを Ableton Live Lite に追加するには、「CATEGORIES」列で「インストゥルメント」または「プラグイン」を選択します。
7. 「CATEGORIES」列の右にある「名前」列に、選択したインストゥルメントまたはプラグインがあります。インストゥルメントを Ableton Live Lite の MIDIトラックにクリック&ドラッグしてロードします。これでKeystation 61 MK3 でインストゥルメントをトリガーできるようになります。

**ヒント:** Mackie Control を使用するには、Mackie Control モードに設定する必要があります。詳しくは、[十字ボタンとトランスポート・コントロール](#)をご参照ください。

## Pro Tools | First M-Audio Edition セットアップ

1. Keystation 49 MK3を付属USBケーブルでコンピューターと接続し、Pro Tools | First M-Audio Editionを起動後、プロジェクトを開く、または作成します。
2. Setupメニューから、MIDI Input Devicesを開き、Keystation 49 MK3の横にあるボックスをクリックしてMIDI入力を有効にします。
3. SetupメニューのPlayback Engineを開き、プルダウンメニューからオーディオデバイスを選択します。
4. インストルメント・トラックを作成するには、「Track」メニューから「新規」を選択します。
5. ニュープルダウンメニューで、「Stereo」、「Instrument Track」の順に選択します。
6. 新たに立ち上げたトラックのインサートA~Eをクリックし、「Multichannel Plugin」>「Instrument」からプラグイン・インストルメントを選択することで、起動できます。

注：Windows ユーザーは、オーディオインターフェース、またはASIO ドライバーが必要です。

**ヒント：**Windows ユーザーは、AIR 192|4 などのオーディオインターフェース、またはASIO ドライバーが必要です。

## 初期設定

インストール作業完了後にMIDIアプリケーション側の設定をする必要があります。Keystation は本体にサウンド・プリセットを搭載していないため、鍵盤を押しても MIDI データ(演奏情報)を送信するだけです。実際に発音させるためには、MIDI データを読み込んで、その演奏情報に基づいて発音し演奏するようにアプリケーション側のオプションメニューやデバイス設定メニューにおいて設定する必要があります。Keystation は、Windows では「USB オーディオデバイス (USB Audio Device)」などとして表示され、その他のオペレーティングシステムでは、音楽アプリケーションの MIDI デバイスセクションの中に「Keystation」として表示されます。設定については、MIDI アプリケーションのマニュアルをご参照ください。

## 各部の機能

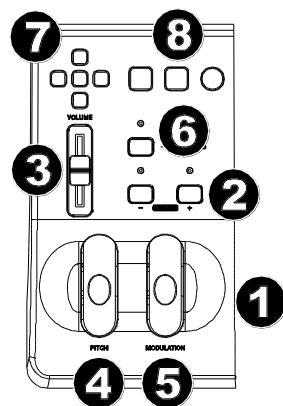
## トップパネル

1. **キーボード**：ほとんどの白鍵と黒鍵には名前のラベルが貼られています。Advanced モードでは、ラベルの付いたキーを押すと、MIDI チャンネルの調整、トランスポーズ、プログラム変更メッセージの送信などの操作が可能になります。
2. **オクターブ・ボタン**：デフォルトのオクターブでは両方のランプが点灯しています。オクターブ「+」ボタンを一回押すと、オクターブ「-」ボタンの上の LED が消え、1 オクターブ高い状態になります。

オクターブ「-」ボタンを押すと、オクターブ「+」ボタンの上の LED が消え 1 オクターブ下がります。もし、オクターブ「-」ボタンの上の LED のみが点灯している場合は、まだ 0 設定より低いオクターブであることを示します。オクターブ「+」ボタンの上の LED のみが点灯している場合は 0 設定より高いオクターブを示します。キーボードはオクターブシフト 0 の状態から音域を上下にそれぞれ最高 4オクターブ変化させることが可能です。

キーボードのオクターブシフトを「0」の状態に戻すにはオクターブ「+」ボタンとオクターブ「-」ボタンを同時に押します。両方の LED が点灯して、オクターブシフトが「0」に戻ったことを示します。

設定可能な 7つの MIDI 機能を操作するには、オクターブ「+」と「-」ボタンを使用します。(詳細はアドバンスド・ファンクションの項)



3. **ボリュームスライダー**：演奏されるノートのボリューム（音量）をコントロールします。ボリューム・スライダーに、パン（バランス）、アタック、リバーブ、コーラス、等のエフェクトをアサインすることもできます。(詳細はアドバンスド・ボタンの項)
4. **ピッチベンド・ホイール**：キーボードで弾いたノートのピッチ（音程）を上下に変化させます。これを使用すると、ギタースタイルの演奏も可能です。ノートの変化幅は音源によって異なり、一般的な設定は 2 セミトーン（半音）ですが、最大上下 2 オクターブまで設定できます。
5. **モジュレーション・ホイール**：演奏中の音声をモジュレーションする為に使用します。この種のリアルタイム・コントローラーは、元来、アコースティック楽器の演奏者と同様のビブラート演奏等の為に導入されました。ピッチベンド・ホイールとモジュレーション・ホイールは MIDI アサイン可能です。

6. **アドバンスド(Advanced)ボタン**：鍵盤の左側の「Advanced」ボタンを使って他のアドバンスド機能が利用できます。

このボタンを押すと、Advanced ボタン上のランプが点灯しキーボードは編集モードになります。

キーボードの黒鍵盤は機能選択、白鍵盤はデータ入力と MIDI チャンネル選択、DAW 選択等に使用します。

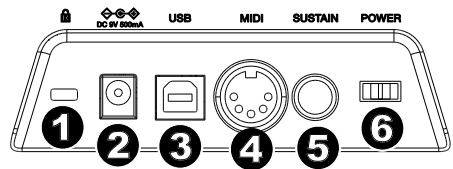
CANCEL 鍵盤を押すとキャンセル、ENTER 鍵盤を押すと決定になり、編集モードを終了して (Advanced ボタン上のランプが消えます)、通常の演奏モードに戻ります。(詳細は「アドバンスド・ファンクション」の項)

7. **十字ボタン**：MIDI、MackieControl や HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。(詳細は「十字ボタンとトランスポート・ボタン」の項)
8. **トランスポート・ボタン**：MIDI、MackieControl や HUI プロトコルに対応したソフトウェアをコントロールするために使用します。(詳細は「十字ボタンとトランスポート・ボタン」の項)

## リアパネル

1. **Kensington® Lock**：セキュリティ・ケーブルを接続します。

2. **電源アダプター・インプット**：PC なしに接続せず単体使用で、MIDI 接続による外部モジュール演奏をする場合、DC9V、500mA 電源アダプター (別売) を接続します。



3. **USBポート**：USBケーブルでコンピュータと接続します。1本のUSB ケーブルを介して、電源供給とMIDI 信号の送受信行います。
4. **MIDI Out**：5ピンのMIDIケーブル (別売) を使用して、外部サウンドモジュールやシンセサイザーのMIDI入力と接続します。
5. **サステイン・ペダル端子**：M-Audio SP-2などのアンラッチ・タイプのフット・スイッチ (別売) を接続します。スイッチを押すと、キーボードを押さえ続けることなく、演奏した音を持続させます。

ヒント：Keystation キーボードは、電源投入時にサステイン・ペダルの極性を自動的に認識しますので、ペダルの極性を問いません。キーボードの電源を入れる前にペダルを接続してください。もし、ペダルの動きが効果と逆になってしまった場合は、ペダルを踏みながら Keystationの電源をオンにしてください。

6. **エクスプレッション・ペダル端子**：1/4" TRS のエクスプレッション・ペダルを接続します。

**オン/オフ・スイッチ**：キーボードの電源をオン・オフします。



1. Advanced ボタンを押して、キーボードを編集モードにします。
2. 「OCT+」を表す黒鍵 (Bb2) を押すと 1 オクターブだけ上がります。再び押すと 2 オクターブ 上がるという具合にオクターブを上げていくことができます。「OCT-」を表す黒鍵盤 (F#2) を押すと 1 オクターブだけ下がります。再び押すと 2 オクターブ 下がるという具合にオクターブを下げて いくことができます。また、「OCT 0」を表す黒鍵盤 (G#2) を押すとオクターブ・シフト設定が 0 にリセットされます。
3. オクターブ・シフトの選択が終わったら、“ENTER” の白鍵を押して編集モードを終了します。

## トランスポーズ

1オクターブ上下するよりも数セミトーンだけピッチを上下させたい場合に有効なのがトランスポーズ機能です。例えば、ある曲をボーカリストと演奏していて、最も高い音程の発声ができない時などには、ピッチを 1~2 セミトーン下げるとうまくいくこともあります。これはトランスポーズという MIDI 機能で行うことができます。

トランスポーズには、シフト幅が  $\pm 12$  であるという点を除けば、上記のオクターブ・シフトと同様の操作をします。オクターブ・シフトと同様、トランスポーズにも 2 通りの方法があります。オクターブ「+」「-」ボタンを使うか、または黒鍵「TRANS-」「TRANS 0」「TRANS+」を用います。

オクターブ「+」「-」ボタンにトランスポーズ機能をアサインするには

1. Advanced ボタンを押します。
2. "TRANSPPOSE"と書かれた黒いキー(Eb2)を押します。(TRANSPPOSEを押すと、編集モードが解除されます。)
3. “+”もしくは“-”キーを押すと、音程が変わります。
4. トランスポーズをキャンセルするには「+」と「-」を同時に押します。

### プログラム・チェンジ

プログラムチェンジは楽器またはボイスを変更するときに使います。一例として、楽器をベース音に変えてみます。アコースティック・ベースを選択するプログラムチェンジ32を送信します。プログラムチェンジを送信するには2通りの方法があります。

#### インクリメンタル/デクリメンタル (+1/-1) 式プログラムチェンジ：

1. Advanced ボタンを押します。
2. "PGM CHANGE"を表す、黒鍵 (F#1) を押します。
3. これでオクターブ「+」「-」ボタンを使ってプログラムチェンジができます。
4. 鍵盤を弾きながらお望みの楽器が見つかるまで「+」ボタンを押します。

曲中でどの楽器音が一番合うかを確認するために、様々な楽器を切り替えたい場合に便利です。

#### クイックセレクト・プログラムチェンジ：

1. Advanced ボタンを押します。
2. "PROG #"を表す、黒鍵 (F#2) を押します。
3. 鍵盤で"3"、"2"、"ENTER"を押します。これでベース音(32番)を鳴らせるようになります。この方法は、特定の番号を選択したい場合に便利です。

オクターブの「+」と「-」を選択して、プログラム番号を変化させた場合（方法1）  
「+」と「-」を同時に押すと、グランドピアノの音を選択するプログラム0を呼び出します。

### バンクセレクト LSB とバンクセレクト MSB

プログラムチェンジは、楽器や音色を変更するために最も一般的に使用されます。ただし、プログラムチェンジでアクセスできる楽器数は128に制限されています。一部のデバイスには128以上の音色があり、これらの追加音色にアクセスするには別の方法が必要です。一般的に、これらのデバイスではバンクLSBとバンクMSBメッセージを使用します。

#### インクリメンタル/デクリメンタル (+1/-1) 式バンクLSB とバンクMSB チェンジ：

1. Advanced ボタンを押します。
2. "Bank LSB" (Bb1) もしくは"Bank MSB" (G#2) と書かれた黒鍵を押します。
3. オクターブの"+"と"-キーでバンクLSBまたはバンクMSBを変更できるようになります。
4. "+"をお目当ての楽器が見つかるまで押して音符を弾き続けます。
- 5.

#### クイックセレクトを使用する場合：

1. Advanced ボタンを押します。
2. "Bank LSB #"または"Bank MSB #"と書かれた黒鍵をそれぞれ押します。
3. 鍵盤で"3"、"2"、"ENTER"を押します。

プログラムチェンジ同様に、オクターブの"+"と"-キーを選択してバンクのLSBまたはMSB番号を変化させます（方法1）。"+"と"-を同時に押すと、バンク0を呼び出します。

## MIDI チャンネル

キーボードからMIDIデータをMIDIチャンネル16系統のいずれかに送信することができます。しかし、MIDI機器やMIDIソフトウェアによっては、特定のチャンネルで送ることが要求される場合がありますので、その場合はデータ送信チャンネルを以下のように変更します。

1. Advanced ボタンを押します。
2. MIDIチャンネルを表す鍵盤 (D2~E4) の内、いずれか該当するものを押します。

16 チャンネルが設定された状態でオクターブ「+」ボタンを押すと 1 チャンネルが選択されます。チャンネル選択にオクターブ「+」「-」ボタンを使用する場合、ボタン上のランプの点灯表示は変わりません。「+」「-」ボタンを同時に押すと 1 チャンネルが選択されます。

## コントロールチェンジ(CC)

Octave/Data ボタンに Control Change メッセージを送信するようにアサインするには、以下の手順に従ってください。

1. Advanced ボタンを押します。
2. "CC" (Eb3) と書かれた黒鍵を押します。
3. 数値データ入力キー G4-B5 を使用して、+/- ボタンに割り当てるコントロールチェンジの番号を入力します。
4. 割り当てられた MIDI コントロールチェンジのメッセージが送信され、オンとオフが切り替わります。(一度オンを押して、再度オフを押す)
5. "ENTER" の白鍵を押します。

Octave +/- ボタンはモメンタリー動作で MIDI Control Change メッセージを送信することもできます。Octave/Data ボタンを Control Change にアサインするには、以下の手順に従ってください。

1. Advanced ボタンを押します。
2. "CC" (Eb3) と書かれた黒鍵を 2 度押します。

**注：-/+ボタンにモメンタリー CC メッセージをアサインすると、アドバンスド LED が点滅します。**

3. 数値データ入力キー G4-B5 を使って、+/-ボタンに割り当てるコントロールチェンジの番号を入力します。
4. 本機はアサインされた MIDI コントロールチェンジメッセージを送信します。(押すと On、離すと Off になります。)
5. "ENTER" の白鍵を押します。

### ボリュームスライダー・アサイン

ボリュームスライダーをエフェクトにアサインするには：

1. Advanced ボタンを押します。
2. "SLIDER"と書かれた黒鍵を押します。
3. 数値入力キーを使用して、ボリュームフェーダーにアサインするCC番号を入力します。

間違えて数値入力してしまった場合は、「CANCEL」キーを押すと、ボリュームスライダーに割り当てられているエフェクトを変更せずに編集モードを終了することができます。

### モジュレーションホイール・アサイン

モジュレーションホイールに異なるCCやMIDIメッセージをアサインすることができます。

例) MIDI CC 01 (モジュレーション)、MIDI CC 07 (ボリューム)、MIDI CC 10 (パン)、MIDI CC 05 (ポルタメント) 等

全部で132のメッセージがあります。しかし、これらのメッセージを使用するには、受信側のMIDI デバイスがこれらのMIDIメッセージを読み取って応答できなければなりません。ほとんどのデバイスでは少なくともボリューム、モジュレーション、パンに対応します。

モジュレーション・ホイールにメッセージをアサインするには：

1. Advanced ボタンを押します。
2. "WHEEL"と書かれた黒鍵を押します。
3. 数値データ入力キーを使用して、モジュレーション・ホイールに割り当てるメッセージの番号を入力します。

数値入力中に誤って入力してしまった場合は、CANCELキーを押して編集モードを終了し、モジュレーションホイールに割り当てられているエフェクトを変更せずに編集モードを終了することができます。

例として、モジュレーション・ホイールにCC番号10 (パン、またはバランス) を割り当てます。

1. Advanced ボタンを押します。
2. "WHEEL"と書かれた黒鍵を押します。
3. "1"鍵盤を押します。
4. "0"鍵盤を押します。これで"10"を入力したことになります。
5. 最後に"ENTER"の白鍵を押して決定します。

## 十字ボタンとトランスポート・コントロール

方向ボタンとトランスポートボタンは、MIDI、Mackie Control、または HUI プロトコルを使用して、それらをサポートするソフトウェアの特定の機能を制御します。

これらのボタンがソフトウェアとの通信に使用するプロトコルを選択します。

1. Advanced ボタンを押します。
2. “DAW”と書かれた鍵盤を押します。

**注意：**Mackie Control モードでは「+」と「-」の LED が緑に、HUI モードでは赤に、MIDI モードではオレンジに点灯します。

3. 最後に“ENTER”の白鍵を押して決定します。

**注：**MIDI、Mackie Control、HUI プロトコルを使用して外部デバイス（Keystation など）からコマンドを受信するようにソフトウェアが設定されている必要があります。MIDI、Mackie Control、HUI コントロールは、Virtual Port 2 で送信されます。

## トラブルシューティング

### 一般

ご使用中に次のようなトラブルが生じた場合には、以下の指示に従って操作してください。

問題1：インストール後は適切に動作していたのに突然動作しなくなった。

解決1：電源を切って10秒間置いてください。その後、コンピュータを再起動して再度お試しください。それでも解決しない場合は、ドライバーを再インストールする必要があるかもしれません。

問題2：サスティン・ペダルをキーボードに接続したが逆操作になっている。

解決2：サスティン・ペダルの極性は、キーボードの電源が入った段階で検知されます。電源ON時に、サスティン・ペダルはOFFの位置になっているとみなされます。従って、サスティン・ペダルを押えていない状態をOFFに設定したい場合は、サスティン・ペダルが押えられていないことを確認してから電源を入れてください。

問題3：鍵盤を押してから音が鳴るまでに時間のずれがある。

解決3：この遅れはレイテンシと呼ばれています。MIDI信号のレイテンシはご使用のソフトシンセに起因しています。MIDIデータはコントロールデータに過ぎません。MIDIはソフトシンセによって読み取られます。その後、ソフトシンセは実際の音を作り出すために複雑な計算を数多く実行します。この処理には時間がかかるのです。

高品質のオーディオ・インターフェイスをご使用になることをお勧めします。オーディオ・インターフェイスの選択については、弊社カスタマ・サポートまでお問い合わせください。またレイテンシの値を減らすには、ご使用のソフトウェア内のオーディオの初期設定（またはオーディオのオプション）の選択肢の中から新しいドライバを選択する必要があります。オーディオの初期設定の方法が分からない場合は、ご使用のソフトウェアに付属の説明書をご参照ください。

## MIDI の問題が発生した場合

Keystationキーボードは、コンピュータでのMIDI作業をできるだけ簡単に行えるように設計されています。しかし、それでもなお、いくつかの問題が発生することがあります。多くの場合、下記手順でコントローラーをリセットすることで直る場合があります。

### リセット・オールコントローラー

ボイスに不要なエフェクトがかかっている場合、「リセット・オールコントローラー」MIDIメッセージを送信して全てのエフェクトを0にリセットできます。

1. Advanced ボタンを押します。
2. 「RESET」を表す黒鍵を押します。
3. 編集モードは終了し、全てのエフェクトは消えます。

### 工場出荷時へのリセット

1. Keystationの電源を切ります。
2. 「OCT+」「OCT-」ボタンを押し続けます。
3. Keystationの電源を入れます。
4. 3つのボタンから手を離します。キーボードは、工場出荷時の状態に戻ります。

## MIDI 出力

MIDI Outポートはキーボードの背面にあり、キーボードを外部のサウンドモジュールやMIDIキーボードに接続することができます。

デフォルトでは（ユニットの電源を入れたとき）、すべてのコントローラーのデータはMIDI出力とUSB出力を介して送信されます。MIDI出力を従来のUSB-MIDIインターフェースのように動作させたい場合は、以下の手順で「MIDIアウト」モードにしてください。

1. Advanced ボタンを押して編集モードにします。
2. 「MIDI OUT」を表す黒鍵を押します。
3. 次に「ENTER」の白鍵を押して確定します。
4. これでキーボードは、MIDI OUT端子を介して接続されているデバイスにMIDIデータを送信することができますようになります。

MIDI出力を使用するには、シーケンサーのMIDI出力デバイスとしてKeystation USB-MIDI Outを選択してください。

## 付録

## 「+」 / 「-」 ボタンユーザー設定

00 Bank Select	39 Channel Volume LSB	73 Attack Time
01 Modulation	40 Balance LSB	74 Cut-off Frequency
02 Breath Control	41 Controller 41	75 Controller 75
03 Controller 3	42 Pan LSB	76 Controller 76
04 Foot Control	38 Data Entry LSB	77 Controller 77
05 Porta Time	39 Channel Volume LSB	78 Controller 78
06 Data Entry	40 Balance LSB	79 Controller 79
07 Channel Volume	41 Controller 41	80 Gen Purpose 5
08 Balance	42 Pan LSB	112 Controller 112
09 Controller 9	43 Expression LSB	113 Controller 113
10 Pan	44 Controller 44	114 Controller 114
11 Expression	45 Controller 45	115 Controller 115
12 Effects Controller 1	46 Controller 46	116 Controller 116
13 Effects Controller 2	47 Controller 47	117 Controller 117
14 Controller 14	48 Gen Purpose 1 LSB	118 Controller 118
15 Controller 15	49 Gen Purpose 2 LSB	119 Controller 119
16 Gen Purpose 1	50 Gen Purpose 3 LSB	<b>Channel Mode Messages:</b>
17 Gen Purpose 2	51 Gen Purpose 4 LSB	120 All Sound off
18 Gen Purpose 3	52 Controller 52	121 Reset all Controllers
19 Gen Purpose 4	53 Controller 53	122 Local Control
20 Controller 20	54 Controller 54	123 All Notes Off
21 Controller 21	55 Controller 55	124 Omni Off
22 Controller 22	56 Controller 56	125 Omni On
23 Controller 23	57 Controller 57	126 Mono On (Poly Off)
24 Controller 24	58 Controller 58	127 Poly On (Mono Off)
25 Controller 25	59 Controller 59	<b>Extra RPN Messages:</b>
26 Controller 26	60 Controller 60	128 Pitch Bend sensitivity
27 Controller 27	61 Controller 61	129 Fine Tune
28 Controller 28	62 Controller 62	130 Coarse Tune
29 Controller 29	63 Controller 63	131 Channel Pressure
30 Controller 30	64 Sustain Pedal	
31 Controller 31	65 Portamento	
32 Bank Select LSB	66 Sostenuto	
33 Modulation LSB	67 Soft Pedal	
34 Breath Control LSB	68 Legato Pedal	
35 Controller 35	69 Hold 2	
36 Foot Control LSB	70 Sound Variation	
37 Porta Time LSB	71 Resonance	
38 Data Entry LSB	72 Release Time	

**技術仕様**

<b>電源</b>	USB バスパワー、または DC 9V、500mA センタープラス電源アダプター（別売り）
<b>サイズ(W x D x H)</b>	995 x 189 x 68 mm
<b>重量</b>	4.1 kg

※仕様は予告なく変更になる場合がございます。

**商標およびライセンス**

M-Audio は inMusic Brands, Inc., の商標で、米国およびその他の国々で登録されています。Kensington は ACCO Brands の登録商標です。

および iPad および macOS は、米国およびその他の国々において Apple Inc., の登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国々において、Microsoft Corporation の登録商標です。Ableton は Ableton AG. の登録商標です。

AAX、Avid、および Pro Tools は、アメリカ合衆国あるいはその他の国における Avid Technology, Inc の登録商標または商標です。

VST は、Steinberg Media Technologies, GmbH の商標です。

その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。